

令和 6 年度 自己点検・評価

実施日

令和 7 年 3 月 25 日

奈良国際日本語学校

自己点検・評価項目について

この点検・評価項目は、奈良国際日本語学校が自己点検・評価を行うに際し、その参考となるように項目を設定して作成したものである。

項目は、教育活動を支える設置者及びそのマネジメントに関する部分と、運営に関する部分から成っている。前者には大項目として理念・教育目標、組織、財務、教育環境、安全・危機管理、法令の遵守等を設け、主に規範に基づいた組織・環境が整えられているかを確認する。後者には運営全般、学生募集、教育活動、学生支援、教育成果を設けて、現場の学校運営が効果的に行われているかを点検・評価する。大項目の下には、それぞれ中項目や小項目を設定している。

点検に際しては、まず小項目及び中項目を点検・評価し、大項目で達成状況、課題、改善計画等を記述する。

点検・評価に当たっては、各項目に応じた業務担当の責任者と校務の統括責任者による態勢を組んで行う。

項目の内容の達成に度合いがあるものの評価は、AB評価として、次の分類とする。

- A : 達成されている。
- B : ほぼ達成されているが、不十分なところがあり改善に取り組んでいる。
- C : 達成に向けて努力している。
- D : 達成されていない／必要性に気づいていなかった。

項目の内容が成立しているか否かの二択でされるものの評価は、OX評価として以下の分類とする

- : 成立している
- × : 成立していない

第1 設置者及びマネジメント

1 理念・教育目標

1-1 理念と教育目標

<理念>

本校では、日本語を楽しく学び、お互いのコミュニケーションが促進されるような空間を構築し、学生達が日本の歴史、文化、伝統を理解しながら、日本語能力と共に日本の習慣やマナーを身につけられるような指導を行う。

<教育目標>

一定の日本語能力を身につけさせると共に、日本の社会で通じるマナー等の基本的振舞いを習得し、相互理解力を持った国際的人材の育成を目指す。そして、将来的に日本と関連する様々な活動の現場で活躍し得るように、日本の高等教育機関への進学を個々の学生の当面の目標として掲げるものとする。

OX 評価 [0] 1-1 上記の理念と教育目標が教職員、学生に周知されている。

1. 理念・教育目標について

理念と教育目標は妥当である。

2 組織

2-1 組織態勢

OX 評価 [0] 2-1-1 設置者、設置代表者及び経営担当役員は、「日本語教育機関の告示基準」で定められた要件に適合している。

AB 評価 [B] 2-1-2 事業規模に応じた組織態勢になっている。

AB 評価 [B] 2-1-3 受け入れようとする学生の言語への対応策が講じられている。

まとめ

基本的には、認可申請時と変わらないが、コロナ禍の経験から、オンラインでのやり取りが充実し、情報の伝達不足は補われている。

2-2 教員組織

OX 評価 [0] 2-2-1 校長、主任教員及び教員は、「日本語教育機関の告示基準」で定める要件を備えている。

OX 評価 [0] 2-2-2 校長、主任教員、専任教員及び非常勤教員の職務内容及び責任と権限が明確に定められている。

AB 評価 [B] 2-2-3 その獲得の為に必要な対策が講じられている。

まとめ

コロナ禍を経ての、初めての新生入生の受け入れだった初年度から、3年目を迎え、教育課程は通常の軌道に乗り、第1期生の卒業式を経て、第2期生も迎え入れたが、管理面等、今後の工夫が求められる。

2-3 事務組織

OX 評価 [0] 2-3-1 生活指導責任者及び入管事務担当者が特定され、その職務内容及び責任と権限が明確に定められている。担当者が複数名の場合は、責任者が特定され、それぞれの責任と権限が明確化されている。

OX 評価 [0] 2-3-2 生活指導責任者及び入管事務担当者が学生及び教職員に周知されている。

OX 評価 [0] 2-3-3 入国管理局により認められた申請等取次者を配置している。

まとめ 担当は決めてあるが、留学生の定員を増やした関係で、実質的には、担当の枠を超えた総力体制で対応をしている。

2-4 採用と育成

OX 評価 [0] 2-4-1 教員及び職員の採用方法及び雇用条件が明文化されている。

AB 評価 [B] 2-4-2 教員及び職員の研修等により教育の質及び支援力強化のための取組をしている。

AB 評価 [B] 2-4-3 教育機関としての信頼を高めるため、倫理観、振る舞い、ハラスメント防止等に関する研修を行っている。

AB 評価 [B] 2-4-4 教員及び職員の評価を適切に行っている。

まとめ 教育体制、教員間の連絡体制も整っており、各教員の状況、授業の様子なども把握しながら、全体の連携を図り、教育活動を行っている。

2. 組織について

今年の入学生は昨年に比べて指導を徹底したため、昨年に比べて生活面での自己管理がはるかに上達したと感じる。教職員間の連携を密にし、教育体制を強化した賜物であると思う。組織運営についても年々改善を重ねてきている成果が出てきている。

3 財務

3-1 財務状況

AB 評価 [A] 3-1-1 財務状況は、中長期的に安定している。

AB 評価 [A] 3-1-2 予算・収支計画の有効性及び妥当性が保たれている。

まとめ 昨年度の学生の学費支払い遅延などの問題を検証し、その後の指導体制の強化に注力したため、学費遅延等の問題もなく、財務状況に問題はなかった。

3. 財務について

次年度も継続的な学生の入学が見込まれており、財務状況についても、凡その見通しが立っている。

4 教育環境

4-1 校地、校舎

OX 評価 [0] 4-1-1 教育機関として適切な位置環境にある。

OX 評価 [A] 4-1-2 安定的に教育活動を継続するための校地及び校舎が整備されている。

OX 評価 [A] 4-1-3 校舎面積は、「日本語教育機関の告示基準」に適合している。

まとめ 校地・校舎は認可申請時のまま適合性を維持している。

4-2 施設、設備

OX 評価 [0] 4-2-1 教室、その他の施設は、「日本語教育機関の告示基準」に適合している。

AB 評価 [A] 4-2-2 教室内は、十分な照度があり、換気がなされている。

AB 評価 [A] 4-2-3 すべての教室は、語学教育を行うのに必要な遮音性が確保されている。

OX 評価 [0] 4-2-4 授業時間外に自習できる部屋が確保されている。

AB 評価 [B] 4-2-5 教育内容及び学生数に応じた図書やメディアが整備され、常時利用可能である。

AB 評価 [B] 4-2-6 視聴覚教材や IT を利用した授業が可能な設備や教育用機器が整備されている。

AB 評価 [A] 4-2-7 教員及び職員の執務に必要なスペースが確保されている。

AB 評価 [A] 4-2-8 同時に授業を受ける学生数に応じたトイレが設置されている。

OX 評価 [0] 4-2-9 法令上必要な設備等が備えられている。

OX 評価 [0] 4-2-10 廊下、階段等は、緊急時に危険のない形状である。

まとめ 随時、補充の必要な設備は補充できており、さらに第 2 校舎も増設し、認可も受け施設の充実に取り組んでいる。

4. 教育環境について

校舎の建物等は基準を満たしているものの、校舎の形状等から、使用に工夫が必要であった。今後は完成した第 2 校舎の幅広い活用を検討していく。

5 安全・危機管理

5-1 健康・衛生

AB 評価 [A] 5-1-1 健康、衛生面について指導する態勢を整えている。

OX 評価 [0] 5-1-2 対象となる学生全員が国民健康保険に加入し、併せて、傷害保険にも加入している。

OX 評価 [0] 5-1-3 重篤な疾病や傷害のあった場合の対応を定めている。

OX 評価 [0] 5-1-4 感染症発生時の措置を定めている。

まとめ 国民健康保険、留学生保険は全員加入しており、緊急時は、教職員総動員体制で対応している。

5-2 危機管理

AB 評価 [B] 5-2-1 危機管理態勢が整備されている。

AB 評価 [B] 5-2-2 火災、地震、台風等の災害発生時の避難方法、避難経路、避難場所等を定めている。

OX 評価 [0] 5-2-3 気象警報が発令された場合の措置を定めている。

OX 評価 [0] 5-2-4 災害等に対する避難訓練を定期的に行っている。

OX 評価 [0] 5-2-5 防災用品が備蓄されている。

まとめ 自然災害時の対応は、学生入学時のオリエンテーションで説明しており、合わせて、日程を定めて防災訓練を行っている。

5. 安全・危機管理について

必要な保険への加入、及び防災設備に支障がないように常に点検を繰り返すことと、教職員が常に冷静な判断を下せるように会議を重ねておく。

6 法令の遵守等

6-1 法令の遵守

OX 評価 [0] 6-1-1 法令遵守に関する担当者を特定している。

OX 評価 [0] 6-1-2 教職員のコンプライアンス意識を高めるための取組を行っている。

OX 評価 [0] 6-1-3 個人情報保護のための対策がとられている。

OX 評価 [0] 6-1-4 入国管理局、関係官庁等への届出、報告を遅滞なく行っている。

まとめ 入学前の出願者の情報の管理を徹底し、機関としての出入国在留管理庁への報告義務にも努めている。
在校生の個人情報の保護も徹底すべく教職員への教育も進めている。

6. 法令の遵守等について

定められた告示基準を維持することは勿論、学生たちにも、法の定めに従って学生及び教職員が法によって守られ、健全な学校運営、学生生活が実施できるよう準備し、周知していくべく準備中である。

第2 運営に関する事項

7 運営全般

7-1 組織的な運営

OX 評価 [0] 7-1-1 短期及び中長期の運営方針と経営目標が明確化され、教職員に周知されている。

AB 評価 [B] 管理運営の諸規定が整備され、規定に基づいた運営がなされている。

AB 評価 [B] 7-1-3 意志決定が組織的になされ、かつ、効率的に機能している。

AB 評価 [B] 7-1-4 予算編成が適切になされ、執行ルールが明確である。

AB 評価 [B] 7-1-5 業務の見直し及び効率的な運用の検討が定期的、かつ、組織的に行われている。

まとめ 入国制限が解かれたこともあり、正常な運営状況が行われるよう、人員体制を整えている。

7-2 納付金

OX 評価 [0] 7-2-1 入学検定料、入学金、授業料及びその他納付金の金額及び納付時期が明示されている。

OX 評価 [0] 7-2-2 学費以外に入学後必要になる費用が明示されている。

OX 評価 [0] 7-2-3 関係諸法令に基づいた学費返還規定が定められ、公開されている。

まとめ 納付金は全て明示され、返金規定も公開されている。

7-3 情報の共有化及び発信

AB 評価 [B] 7-3-1 外部からの情報提供が効率的になされ、かつ、共有化する仕組みがある。

AB 評価 [B] 7-3-2 内部からの情報発信が効率的に行われている。

AB 評価 [B] 7-3-3 入学希望者・学習者及びその利害関係者（経費支弁者等）の理解できる言語で直接乃至は間接的に情報提供を行っている。

まとめ 学生からの入学申請時には原則的に申請者のみならず経費支弁者とも通訳を介してオンラインで連絡を取っている。その後も、仲介機関を通して情報のやり取りをして情報の共有に努めている。

7. 運営全般について

コロナ禍による入国制限の解除直後、学生も教職員も初めての体験となる感染対策をしながらの授業運営、学校生活となり、その中で教育・運営を進める難しさはあった。その中でも第 1 期生が無事卒業し、第 2 期生として 43 名が入学し、無難な経営が見込まれる。

8 学生募集

8-1 募集方針

OX 評価 [0] 8-1-1 理念・教育目標に沿った学生の受入方針を定め、年間募集計画を策定している。

OX 評価 [0] 8-1-2 募集定員を定めている。

OX 評価 [0] 8-1-3 機関に所属する職員が入学志願者に対して情報提供や入学相談を行っている。

まとめ 基本的な計画に基づき、校長が直接、学生募集をおこなっており、書面や電子的な方法で必要な情報を学生仲介機関に伝えている。

8-2 募集活動

AB 評価 [B] 8-2-1 教育内容、教育成果を含む最新、かつ、正確な学校情報が入学希望者の理解できる言語で開示されている。

OX 評価 [0] 8-2-2 求める学生像を明示している。

AB 評価 [B] 8-2-3 応募資格及び条件を入学希望者の理解できる言語で明示している。

OX 評価 [0] 8-2-4 募集活動を行う国・地域の法令を遵守した募集活動を行っている。

AB 評価 [A] 8-2-5 海外の募集代理人（エージェント等）に最新、かつ、正確な情報提供を行っている。

AB 評価 [B] 8-2-6 海外の募集代理人（エージェント等）の行う募集活動が適切に行われていることを把握している。

まとめ 海外の仲介機関とは比較的良好な関係築かれており、健全な募集活動が行われている。こちらの状況をできるだけ詳細に伝えるとともに、申請希望者やその家族とも必要な相互連絡が取れるようにしている。

8-3 入学選考

OX 評価	[0]	8-3-1	入学選考基準及び方法が明確化されている。
AB 評価	[A]	8-3-2	学生情報を正確に把握し、及び提出書類により確認を行っている。
AB 評価	[A]	8-3-3	入学選考を行う態勢が整備されている。
OX 評価	[0]	8-3-4	受け入れるコースの教育内容が志願者の学習ニーズと合致することを確認している。

まとめ

コロナ禍以降、オンラインでの面談が一般化しており、申請希望者はオンラインで必ず面接を行い、一定の水準にあることを確認すると共に、先方の疑問点にも答え、意思疎通を図って入学選考を行っている。

8. 学生募集について

各国現地で日本語を教えている各仲介機関と良好な関係を保ち、純粋に日本留学を希望し、基礎的な日本語を学習し終えている学生の選抜が比較的順調に行われている。

9 教育活動

9-1 企画

OX 評価	[0]	9-1-1	理念・教育目標に合致したコース設定が行われている。
OX 評価	[0]	9-1-2	教育目標達成に向けた教育内容、教育方法及び進捗設計がなされている。
AB 評価	[B]	9-1-3	教育内容及び教育方法について教員間で共通理解が得られている。
AB 評価	[A]	9-1-4	カリキュラムは、体系的に編成されている。
AB 評価	[A]	9-1-5	教育目標に合致した教材が選定されている。
OX 評価	[0]	9-1-6	補助教材、生教材を使用する場合は出典を明らかにするとともに、著作権法に留意している。
AB 評価	[A]	9-1-7	授業に関する学習リソース及び情報を、授業開始までに教員に提供している。
AB 評価	[A]	9-1-8	教員配置が適切になされている。

まとめ

多少の教員の入れ替わりはあったが、大方安定した教員体制で、教育を行うことができた。

9-2 実施

OX 評価	[0]	9-2-1	授業開始までに学生の能力を試験等により判定し、適切なクラス編成を行っている。
AB 評価	[A]	9-2-2	教員に対して、担当するクラスの学生の学習目的、編成試験の結果、学習歴その他指導に必要な情報を伝達している。
OX 評価	[X]	9-2-3	開示されたシラバスによって授業が行われている。
OX 評価	[0]	9-2-4	修了の要件が定められ、学生の理解できる言語によって明示されている。
AB 評価	[A]	9-2-5	教育内容に応じて教育用機器を活用している。
AB 評価	[A]	9-2-6	授業記録簿及び出席簿を備え、正確に記録している。
AB 評価	[A]	9-2-7	理解度・到達度の確認が実施期間中に適切に行われている。
AB 評価	[B]	9-2-8	学生の自己評価を把握している。
AB 評価	[B]	9-2-9	個別学習指導等の学習支援担当者が特定され、適切な指導・支援が行われている。
AB 評価	[B]	9-2-10	特定の支援を必要とする学習者に対して、その分野の専門家の助言を受けている。
AB 評価	[B]	9-2-11	授業や運営に関する学生からの相談、苦情等の担当者が特定され、適切に対処している。
AB 評価	[B]	9-2-12	学習内容、時間割と学年暦、成績判定の基準と方法、学習上の留意点、留学生活上の留意点、入管法上の留意点とこれらについての相談担当者名が入学時に学生に伝えられている。

まとめ 教育や学生管理は、なし得る最善を尽くす努力をしているが、学生達には日本の教育や生活の現場について、認識にギャップがあるようで、日本での教育効果を高めるためにも、事前に学生の認識を高める工夫も求められる。

9-3 成績判定

OX 評価	[0]	9-3-1	判定基準及び判定方法が明確に定められ、開示されている。
OX 評価	[0]	9-3-2	成績判定結果を的確に学生に伝えている。
AB 評価	[B]	9-3-3	判定基準及び判定方法の妥当性を定期的に検証している。

まとめ 可能な限り、妥当な判定基準を目指しているが、客観性を高めるために、今後、年毎の検証を積み重ねることが必要である。

9-4 授業評価

OX 評価	[0]	9-4-1	授業評価を定期的に行っている。
AB 評価	[A]	9-4-2	評価態勢、評価方法及び評価基準が適切である。
OX 評価	[0]	9-4-3	学生による授業評価を定期的に行っている。
AB 評価	[B]	9-4-4	評価結果が教育内容や方法の改善、教員の教育能力向上等の取組に反映されている。

まとめ 専任教員による非常勤教員の評価は必要に応じて試みられている。今年度は、学生による期末の評価を取り入れ、より客観性が得られるようにしたが、これを定期的に行う体制に持っていく必要がある。

9. 教育活動について
ベテラン教員に多数入ってもらい、教育活動は比較的適切に展開されていた。
3 年目を終えるにあたり、これまでに蓄積された経験を生かして、よりベストな活動を進めていこうという姿勢で、今後の教育活動の充実を目指す。

10 学生支援

10-1 支援態勢

AB 評価	[B]	10-1-1	学生支援計画を策定し、支援態勢が整備されている。
AB 評価	[B]	10-1-2	休日及び長期休暇中の学生対応ができています。

まとめ 事故、急な発病などの緊急時の対応は教職員及び経営陣が協力して対応した。休暇中、緊急時に教職員と連絡がつかない場合の 110 番、119 番の使い方も指導し、実際に急な発病で 119 番を適切に使用した例もあった。

10-2 日本社会を理解し、適応するための支援

OX 評価	[0]	10-2-1	入学直後のオリエンテーションを実施している。
OX 評価	[0]	10-2-2	生活に関するオリエンテーションを実施している。
AB 評価	[A]	10-2-3	地域交流や地域活動の機会への参加を積極的に促している。

まとめ 地域柄、文化施設を無料で観覧できるサービス等を受けられる優待券等の配布を受けており、学生たちが自主的に参加できるよう情報提供に努めてきた。

10-3 生活面における支援

OX 評価	[0]	10-3-1	住居支援を行っている。
OX 評価	[0]	10-3-2	アルバイトに関する指導及び支援を行っている。

AB 評価 [A] 10-3-3 交通事故等の相談態勢が整備されている。

OX 評価 [0] 10-3-4 定期的に健康診断を実施している。

OX 評価 [0] 10-3-5 学生全体の生活状況について定期的に調査している。

まとめ 健康的側面、及び経済的側面の両面から、定期的に学生の確認を実施している。また、交通事故等の場合は当法人の顧問弁護士と理事長が初期対応を行い、当法人の担当理事が中期の対応することになっている。

10-4 進路に関する支援

OX 評価 [0] 10-4-1 進路指導担当者が特定されている。

AB 評価 [A] 10-4-2 学生の希望する進路を把握している。

AB 評価 [A] 10-4-3 進学、就職等の進路に関する最新の資料が備えられ、学生が閲覧できる状態にある。

AB 評価 [A] 10-4-4 入学時からの一貫した進路指導を行っている。

まとめ 進学に関しては、昨年度の経験を活かし、説明会等を勧め、学生に意識づけを行うとともに、留学生を受け入れる高等教育機関と頻繁に連絡を取り、進学希望の予定者は全員、進学できるような体制を取っている。

10-5 入国・在留関係に関する指導及び支援

AB 評価 [A] 10-5-1 担当者は、研修受講等により適切な情報取得を継続的に行っている。

OX 評価 [0] 10-5-2 入管法上の留意点について学生への伝達、指導等を定期的に行っている。

AB 評価 [A] 10-5-3 在留に関する学生の最新情報を正確に把握している。

OX 評価 [0] 10-5-4 在留上、問題のある学生への個別指導を行っている。

AB 評価 [A] 10-5-5 不法残留者、資格外活動違反者、犯罪関与者等を発生させないための取組を継続的に行っている。

OX 評価 [0] 10-5-6 過去 3 年間、不法残留者、資格外活動違反者及び犯罪関与者を発生させていない。

まとめ 在留資格に傷がつけば、留学生活の根幹を揺るがすことになるので、犯罪行為は勿論、資格外活動違反等のないように、注意を払っている。

11 教育成果

11-1 成果の判定

OX 評価 [0] 11-1-1 進級及び卒業判定が適切に行われている。

OX 評価 [0] 11-1-2 日本留学試験、日本語能力試験等の外部試験の結果を把握している。

まとめ 日本語能力試験の受験料は学費に組み込んでいるので、原則的に学校が主体で全員に受験させ、その他の外部試験も必要に応じて紹介し、学生の語学教育、進学指導に役立てている。

11-2 卒業生の状況の把握

OX 評価 [0] 11-2-1 卒業生の状況を把握するための取組を行っている。

OX 評価 [0] 11-2-2 卒業後の進路を把握している。

AB 評価 [A] 11-2-3 進学先、就職先等での状況や卒業生の社会的評価を把握に努めている。

まとめ 今年度は卒業生はいなかったが、できるだけ学生の希望に沿うように進学を支援するべく、早い段階で進路の調査、相談を行っている。

11. 教育成果について

日本語の習得は、どうしても個人差が出るが、学生たちは初めての日本の生活で、様々な困難に直面しながら、それを乗り越え、それを指導する教職員も様々な苦勞をしながら、指導を続けた。進学希望の学生は、全てそれぞれの能力、希望に応じた大学、専門学校に進学を決めて卒業させることができた。これらの経験を生かして、第2期生の教育に取り組んでいることは大きな成果と言える。

自己点検・評価

日本語教育機関名：奈良国際日本語学校

点検・評価実施日：令和 7 年 3 月 25 日

実施責任者：吉田浩巳

実施担当者名(役職)：吉田浩巳(設置代表者) 宮木靖隆(校長)、山下和徳(主任教員)、岡本知子(専任教員)、

令和 6 年度 自己点検評価

[総括]

出入国管理及び難民認定法の定める規定に基づく日本語教育機関として令和元年に告示を受けたが、予期せぬコロナ禍に見舞われ、令和 4 年度に初めての学生受け入れを行い、昨年度は、ようやく第 1 期の卒業生を送り出すことができ、完全な形で当自己評価点検も実施することができた。

本年度は新しく 74 名が入学し、過年度の経験を生かして進路指導に取り組んでいる。一方で、第 1 期の卒業生を出しただけの経験の少ない日本語学校であるため、まだまだ学校に進路指導のノウハウの蓄積がなかった点が、専任教員の中に、他校での進路指導の実績があり、経験知が豊富な講師いたため、彼が中心的な役割を担い、教職員皆で取り組んだ結果、その不安を払拭し、大きな成果を上げることができている。

生活指導においては、ごみの分別収集などのルールや決まり事を定期的に丁寧に教えていたつもりだったが、まだまだゴミの分別ができていないのが現状である。また、宿舍の備品の破損も散見され、幅広い分野での生活指導を今後、強化していく必要性を痛感している。

来年度入学生の在留資格認定証明書交付申請については、COE の交付を受けたものの内 43 名が入学を決定し、生徒の総数が 117 名になり、これまでの経験値を生かして、より効果的、実用的な日本語学習の機会を与えられるよう、教職員一丸となって対応していきたいと思う。

吉田浩巳(設置代表者)